

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 89人

② 算数 89人

5 留意事項

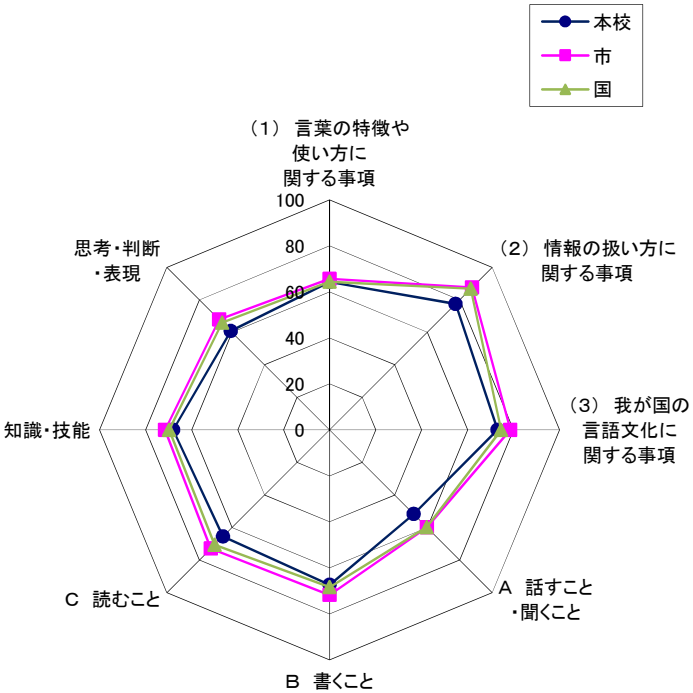
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	64.3	65.7	64.4
	(2) 情報の扱いに関する事項	77.5	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	73.0	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	51.7	59.9	59.8
	B 書くこと	67.4	71.8	68.4
	C 読むこと	65.5	72.9	70.7
観点	知識・技能	68.0	71.5	69.8
	思考・判断・表現	60.8	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

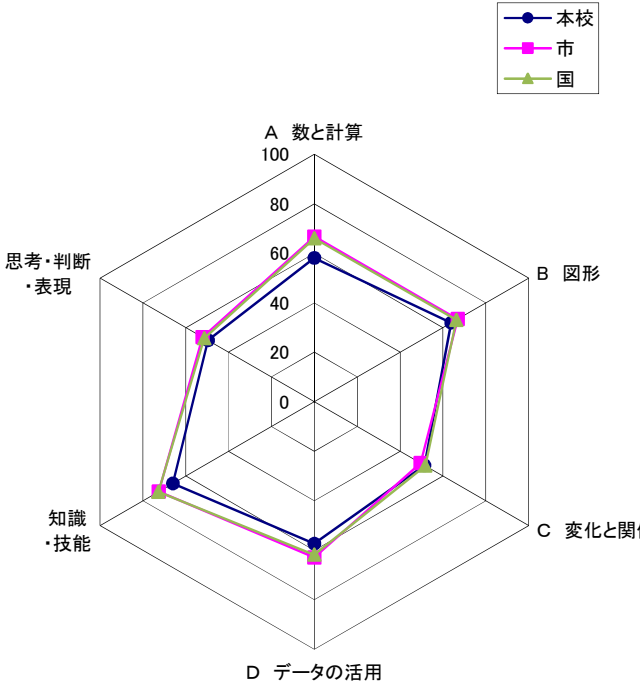
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	○本領域の平均正答率は64.3%で、国の正答率と同程度である。 ○「文の中における主語と述語との関係と捉えることができるかどうかを見る」の正答率は69.7%で、国の正答率を7.4ポイント、県の正答率を5.6ポイント上回った。 ●「文中の『きょうぎ』を漢字で書き表す」の正答率36.0%で、国の正答率を7.4ポイント、県の正答率を3.8ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字を習得するために、国語の授業や宿題だけでなく、自主学習で漢字練習をすることを推奨する。50問漢字テストを使用して漢字の定着を図る。 ・国語の授業だけでなく、他教科の授業でも習った漢字を使用することを徹底し、漢字を使う機会を設ける。
(2) 情報の扱いに関する事項	●本領域の平均正答率は77.5%で、国の正答率を9.4ポイント下回った。 ●「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかを見る」の正答率は、77.5%で、国の正答率を9.4ポイント、県の正答率を9.1ポイント下回った。	・学級活動で行うアンケートや各教科で使用したグラフなどで資料の読み取り方法を指導する。また、目的に応じて情報を取捨選択したり、整理したりする機会を設ける。 ・図表やグラフ、写真や挿絵などを文章と結び付けることを意識させる。図表と文章のどの部分が結びつくのかを明らかにできるように指導をする。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○本領域の平均正答率は73.0%で、国の正答率と同程度である。 ●「日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げること役立つことに気付くことができるかどうかを見る」の正答率は73.0%で、県の正答率を4.6ポイント下回った。また、無回答率は9.0%であり、県の無回答率を4.9ポイント上回っている。	・問題の傾向から、複数の文章を読んで回答する問題であるため、活字を読むことが少ない児童にとっては苦手な問題であったと考えられる。そのため、普段からの読書の習慣をつけることが必要である。チャレンジ読書や週1回の図書室利用日を使用し、本に触れ合う時間を設ける。また、担任からもおすすめの本を紹介するなど、教師からの声掛けを行っていききたい。
A 話すこと・聞くこと	●本領域の平均正答率は51.7%で、国の正答率を8.1ポイント下回った。 ●「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかを見る」の正答率は37.1%で、国の正答率を15.8ポイント、県の正答率を14.5ポイント下回った。	・学級活動、各教科における授業等でペア活動や話し合い活動では自分の考えを発表するだけでなく、相手に自分の考えを分かりやすく伝えるために資料やグラフ等を使うことを積極的に声掛けをしていく。また、資料やグラフ等を使用して、発表している児童への価値付けを行っていく。
B 書くこと	○本領域の平均正答率は67.4%で、国の正答率と同程度であった。 ●「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかを見る」の正答率は76.4%で、国の正答率を3.9ポイント、県の正答率を4.8ポイント下回った。	・普段の授業の姿を見ると文章を書く活動の時に自分の考えが簡潔な内容で終わっている児童が多い。普段の授業からこのような正答率につながったのではないかと考える。自分の考えをまとめる際には頭で考えるだけでなく、自分の考えを整理するツールを使用して自分の考えに肉付けを行っていく活動を積極的に取り入れる。
C 読むこと	●本領域の平均正答率は65.5%で、国の正答率5.2ポイント下回った。 ●「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかを見る」の平均正答率は56.2%で、国の正答率を10.7ポイント、県の正答率を10.0ポイント下回った。	・情景を想像しながら物語を読んだり、文章中の語彙の意味を理解していない傾向にある。国語の授業ではわからない言葉の意味調べを行っていききたい。また、自分の意見を書く問題においても条件を全て満たせなかった児童も多かったことから、条件のある文を書く際には、全ての条件を網羅できるよう日頃から指導をし、見直しの際に、自分で確認できるようにする。

宇都宮市立横川西小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	58.1	66.7	66.0
	B 図形	63.8	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	51.3	49.6	51.7
	D データの活用	57.3	62.9	61.8
観点	知識・技能	66.0	72.6	72.8
	思考・判断・表現	49.6	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	●本領域の平均正答率は58.1%で、国の正答率を7.9ポイント下回った。 ○4問中3問における回答率が、国や県の正答率と比較して高い。 ●数と計算についての問題全てにおいて、国や県の正答率と比較して、5ポイント以上低い。 ●工夫して計算する問題において、国や県の正答率と比較して、正答率が9ポイント以上低い。	・小数のかけ算やわり算など、計算問題を正確に解く練習をさせる。 ・問題文を読み取り立式させるだけでなく、問題文のどの部分を根拠にその式にしたのかを、発表させたり、記述せたりする。 ・計算問題をただ解くだけでなく、分配法則を使うなど、計算の工夫をすることで正答にたどり着けることを示し、活用できるようにしていく。
B 図形	●本領域の平均正答率は63.8%で、国の正答率を2.5ポイント下回った。 ○五角柱の性質に関する問題は、国や県の正答率と比較して2ポイント以上、上回っている。 ●直方体の見取り図に関する問題は、国や県の正答率と比較して8ポイント以上下回っている。	・図形の性質を考えたり、面積・体積を求めたりする際に、解法を教授するだけでなく、見取り図や展開図を正しく書けるよう指導をする。 ・図の中から必要となる長さを考えることができるように様々な図形の性質を複合的に用いる練習問題に取り組む。
C 変化と関係	○本領域の平均正答率は51.3%で、国の正答率と同程度であった。 ○速さの比較を記述する問題では、説明に必要な条件を落とさずに記述することができた児童の割合が、国や県の正答率と比較して、5ポイント以上高い。 ●「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかを見る」の正答率は64.0%であり、県の正答率を3.9ポイント、国の正答率を6ポイント下回った。	・比例では、計算で求めるだけでなく、表や図、数直線など用いて、問われていることを明確にして、考えることができるように指導していく。 ・ふさわしい理由を考えさせる場面を授業の中に設定し、なぜこの方法がふさわしいのか、話し合う活動を通して、道筋を立てて説明する力を今後も育て続けていく。
D データの活用	●本領域の平均正答率は57.3%で、国の正答率を4.5ポイント下回った。 ○折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはめて記述する問題では、国や県の正答率と比べて高い正答率である。 ●データの活用を問う問題全般において、無回答の割合が国や県と比べて高くなっている。	・表を読み取る際には、書かれている内容について、明確に読み取る習慣を獲得できるように、授業の中でも順を追って読み取れるようにしていく。 ・あきらめずに問題に取り組めるように、習熟度に合わせた指導を行い、一人一人が理解した上で少しずつ問題に取り組めるようにしていく。

宇都宮市立横川西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分にはよいところがあると思いますか。」に対して児童の肯定回答は、87.7%で、栃木県や全国よりも2ポイント以上高い。さらに「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」では、全国と比較して7.9ポイント高い。「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」では、全国と比較して27.1ポイント高い。また、質問番号9～19までに見られる、学校生活の充実度を計る項目に関し、すべての項目において、3ポイント以上全国よりも高い結果は見られなかった。こうしたことから、本校の児童は、教職員や学級の仲間と信頼し合い、自分を生かしながら生活しているものと思われる。今後も児童が支え合う機会を作り、一人一人の違いを認め合いながら、よりよい学校生活になるよう生かしていきたい。

○「国語の勉強は大切だと思いますか。」に対して、児童の肯定回答率は98.9%であり、全国や県と比較して2.6ポイント以上高い。また、「国語の授業の内容はよく分かりますか」に対して、児童の肯定回答率も、89.2%であり、全国と比較して2.9ポイント程度高い。「国語の勉強は好きですか」に対しての児童の肯定回答率は、63.5%であり、全国と比較すると高いが、県と比較すると優位性は見られなかった。これらのことから、国語の学習に対する関心が高く、授業が分かったと実感できている児童が多いことが分かった。今後も情報を整理したり、伝える内容を考えたりしながら、子どもたちが学ぶ楽しさを実感できる授業を続けていきたい。

●「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」において、週一回以上使用したと回答している児童は、91.4%であり、全国や県の平均と比較すると、3.0ポイント以上高い。一方で、ICT機器の活用（自分のペースで学習することができる・楽しみながら学習することができる・自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる・友達と協力して学習を進めることができる）についての項目については、県や全国から2.5ポイント以上低い結果となった。このことから、児童がPC・タブレットなどのICT機器を授業で活用する機会は十分にあるが、それを自分達で活用していく力が弱いことが分かった。今後は、国語や総合的な学習などの授業を通して、活用する機会や活用方法を指導していくほかAIDリル等で、学年をさかのぼって学習できることを示していきたい。

●「1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対し、1時間以上学習していると答えた割合は、平日で60.2%、休日で53.8%と、どちらも全国平均よりも高い数値となっている。一方で、国語・算数のテスト後に問われた、「解答時間は十分でしたか」という質問に対し、どちらの教科も全国から11ポイント程度低い結果となった。これらのことから、家庭学習を行う習慣は身に付いてきているが、学力の定着には達していないことが分かった。この結果から、家庭学習の手本を見せたり、「スーパーけやキッズ」運動で点をとれるように学習内容を指導するなどして、家庭学習の内容を改善できるよう、指導していく。

宇都宮市立横川西小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・学びを実感できる授業づくり	・実生活と結びついた興味をひく学習課題の提示や問題を焦点化した「めあて」の設定、自分の言葉で説明する場の設定、授業の振り返りなど、宇都宮モデルをもとにした授業のデザインの工夫	・授業内容に関する質問項目に対する肯定割合は県や全国と比較して高い傾向にあり、授業が分かったと実感できている児童が多いことが分かる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・PC・タブレットなどのICT機器の使用頻度が市や全国の割合よりも低い傾向にあることが分かった。	・ICT機器を活用した授業展開の工夫をする。	・ICT機器の活用法について、具体的な事例を紹介したり演習を取り入れながらの研修を行い、教員がICT機器についての技能を高め、より効果的な指導を行うことができるようにする。